

2021年度 オンデマンド研究報告

幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント

—学び続ける専門家コミュニティを構築する—

足りないから研修？できてないから研修？「人が育つ」ことを支える保育という営みは、課題を解決することが目的ではない。私たちはどう学びたいのか、どう生きていきたいのか、子どもと実践者のwell-beingを目指す研修があってもいいはず。そのような思いから研修のデザインを問い直しました。

「対話」と「ひらく」を方法として取り組んだ研修について、動画で紹介しています。そこでは、これらの研修を通して、私たちが何を感じ、どのような変容が生まれてきたのか、一年間の取り組みを振り返り、確かな手応えを感じています。

* 研究報告動画は、皆さんの園内での研修にもご利用いただけます。
ご希望の方はご連絡ください。

0742-45-7261 (担当：鎌内)



令和3年度 オンデマンド研究報告
幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント
? 学び続ける専門家コミュニティを構築する?

録画にご活用いただけます

配信
令和4年2月8日～2月13日 配信

視聴URLはこちらから！
<https://www.youtube.com/watch?v=73k...>

主催 聖徳女子大学附属幼稚園
高松市高松区中野田1-15-14
0742-45-7261
http://www.seiyou.ac.jp/kidobg/wh/

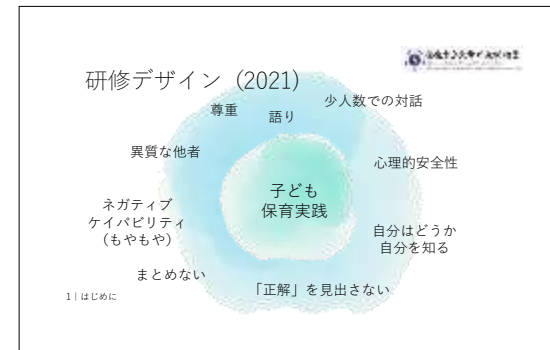
協賛 高松保健福祉大学 高松市 高松市教育委員会
高松女子大学附属幼稚園 高松市高松区中野田1-15-14

2月11日(木) 録画終了

引き出しを増やす学びから
見方そのものが変容する学びへ



1 | はじめに



D.D. (Daily Dialogue) ～日々の実践を通して保育を語る～



D.D.

環境会議～場を通して保育を語る～

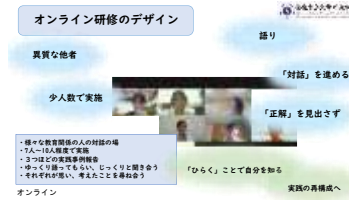


履歴会議～長期的な視点で振り返る～



履歴会議

オンライン研修のデザイン



オンライン

- 様々な教育関係者の人の対話の場
- 7人～10人程度で実施
- 3つほどの実践事例報告
- ゆ〜く〜と進める。じっくり話し合う
- それぞれが思い、考えたことを発表する

講演 東京大学大学院教授 浅井幸子氏

演題 「幼児教育における子どもと教師の学びのデザイン」

本園の研修を事例としてPDCAサイクルの問題やコンピテンシー概念、世界を聴き子どもを聴くことなどについてお話いただきました。

私たちの今年度の研究の意味を問い直しさらに意味づける機会となりました。

幼児教育のカリキュラム・マネジメントをどのように考えるか

PDCAとは何か、その問題とは何か

PDCAを教育に適用することへの批判 (NHK 2020)

- PDCAは品質管理の方法として日本が導入した
- 2000年代以降の行政改革で導入される
- 「学校は工場ではない」「子どもは製品ではない」という批判
- 出しうる問題
- 計画を柔軟に変更し、教育が変化化する
- 教育のスタンダード化と個性を教える子どもの個性
- 教育目的等の共有と教師の協働的実践

幼児教育のカリキュラム・マネジメントをどのように考えるか

「園庭活動」をめぐって

- 子どもの学びを促す
- 教師の学び
- 子どもの学び、教師の学び、園庭活動の学びをどうつなげる



幼児教育のカリキュラム・マネジメントをどのように考えるか

コンピテンシー概念とその問題

<意義>

- 教えから学びへの視点の転換
- 「学力」よりも幅広い良方

<問題>

- 対象世界とその意味が失われる
- コンピテンシー（能力・学力）という個人の持ち物が存在するのよう想定する

幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント -学び続ける専門家コミュニティを構築する-


幼児教育における子どもと教師の学びのデザイン

浅井幸子 (東京大学)
奈良女子大学附属幼稚園公開研究会

リフレクションの実践

園庭会議におけるリフレクション

- 教育課程の編成会議を超える意義
- 子どもの学びの事実を捉える
- 自らの保育を変えようとする（自分の「当たり前」に気づく）
- 問がれていて、まどめない



DD Dairy Dialogue

プランとデザイン (佐藤 2021)

プラン	デザイン
「意図」先行・成果志向	意図の明確化と実践の柔軟性
対象を限定する（時間と場所）	対象を限定せず、子どもと教師の学びを促す
目標 (objective) によって実施される	プロセスによって実施される

ドキュメンテーション 世界を聴く、子どもを聴く

ドキュメンテーションの意義 (藤原 2021)

- 目的
- 「マテリアル」を整理すること、ドキュメンテーションを通して、言葉、筆跡を通して「子どもに語り」
- 実践：子どもの活動から学びを捉える
- 目的：子どもの活動から、どのような学びが得られているかを捉える
- 実践：子どもの活動から、どのような学びが得られているかを捉える
- 実践：子どもの活動から、どのような学びが得られているかを捉える

